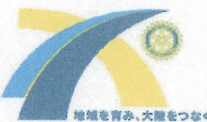


高松南ロータリークラブ特報



R.I.会長 レイ・クリングスミス 会長 田中 弘之 幹事 上村 光男

インターシティミーティング (IM) 準備特集

来年2月18日(土)午後1時より、綾歌総合文化会館「アイレックス」で開催予定のインターシティ・ミーティング(IM)は丸亀RCと当高松南RCがホストクラブとなり開催されます。全会員の登録になっています。日程調整をすすめてください。

来年2月のインターシティ・ミーティング(IM)の成功にむけて、全会員に役割を担っていただき、力をあわせて推進していきましょう。

2011~2012年度

国際ロータリー第2670地区 香川第I・第II分区

Intercity Meeting

インターシティミーティング (IM)

IMテーマ

「瀬戸内海のルネッサンスに向けて」

—アートによる地域再発見—

とき 2012年2月18日(土)午後1時~4時30分

ところ 綾歌総合文化会館「アイレックス」

年度最後の特報は、来年2月のインターシティミーティング(IM)開催ホストクラブとして実行委員会(委員長 牟禮会員)のもと、全会員の力合わせ・知恵併せで取り組む必要から、本年2月に開催されたミーティングの当クラブ関係を中心として次ページ以降に掲載します。ご参照ください。

2010～2011年度インターシティミーティング報告（高松南RC関係版）

2011年2月19日（土） 綾歌総合文化会館「アイレックス」

12:00～13:00

登録受付

13:00～13:30

開 会（点鐘、国歌・ロータリーソング斉唱、開会の辞、来賓紹介、ガバナー挨拶、参加状況報告）

13:35～14:35

基調講演「香川県の地域活性化について」 浜田 香川県知事

①地域活性化の糸口 ②産業を中心とした活性化の基本的認識 ③産業活性化に向けての施策の方向☆力強い産業の育成☆県産品の戦略的販売の強化☆農林水産業の振興 ④その他の地域活性化に向けての施策の方向☆観光の振興☆交通基盤の整備☆文化芸術・スポーツの振興 ⑤締め

14:50～16:10

フォーラム「地域の活性化について」～より良い地域づくりを目指して～

1. 「商店街の活性化」 高松中央RC
2. 「食文化による活性化」 丸亀東RC
3. 「四国八ヶ所巡りを世界遺産登録に向けての地域活性化」 高松東RC
4. 「高松国際ピアノコンクールを通じて地域の活性化」 高松南RC
5. 「金刀比羅宮を通じての地域活性化」 琴平RC
6. カマタマーレで地域活性化」 高松RC

コーディネーター 井原 香川大学名誉教授

<地域の活性化>とは何か？

<地域の活性化>のための取組み？

<活性化の可能性を秘めた視点>

<提案ロータリークラブ>

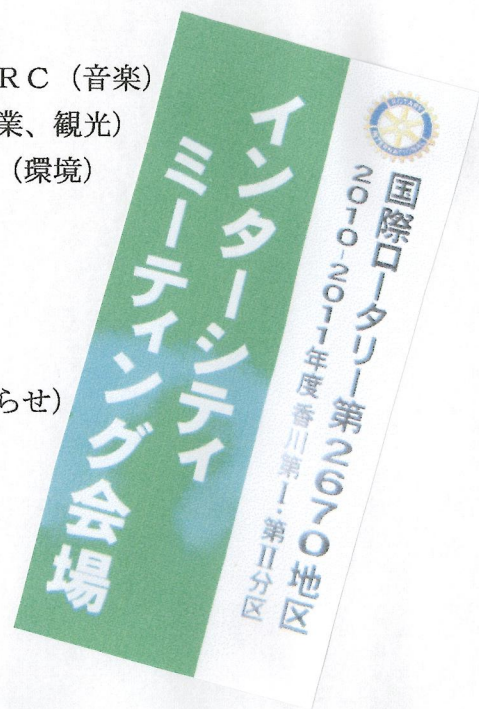
1. 小豆島RC（音楽）
2. 高松グリーンRC（音楽）
3. 坂出RC（音楽、観光）
4. 丸亀RC（商業、観光）
5. 善通寺RC（アート）
6. 観音寺東RC（環境）
7. 観音寺RC（食文化）

16:10～16:20

所感・講評

16:20～16:30

閉 会（閉会の辞、ロータリーソング斉唱、点鐘、お知らせ）



フォーラム 4. 「高松国際ピアノコンクールを通じて地域の活性化」

高松南RC 佃 昌道会員



皆さん、こんにちは。高松南ロータリークラブの佃です。本日は、「高松国際ピアノコンクールを通じて地域の活性化」について、お話をさせていただきます。

まず、「高松国際ピアノコンクール」の目的は、四国の新しい都市型情報発信拠点としての「サンポート高松」地区が整備されたことを契機に、世界の優れた音楽家と触れ合う場を設け、音楽を愛する若者をはじめ、多くの青少年に“夢”と“目標”を育む機会を与えるとともに、香川に新しい音楽文化を構築することでした。

このような実施の目的の背景には、香川県は音楽大学に進学する人材の人口比率面で日本のトップクラスにあり、数々の声楽家を輩出するなど、クラシック音楽に対する関心が高い県であります。また、人口当たりのピアノ台数は、かつて全国2位の実績を有するなど、その普及率は全国的にみても高い状況にあります。

このようなことから、文化的な香川・高松を世界に発信するために、2003年に高松国際ピアノコンクール組織委員会が発足されました。

私自身は、音楽には無縁のもので、ピアノについては、全くの素人でしたが、地域のためと思い、事務局長をお引き受けすることにいたしました。

このピアノコンクールの特色は、現在、日本国内で実施されている「国際ピアノコンクール」に類似することなく、香川・高松独自の考え方で、かつ国際音楽コンクール世界連盟の基準に沿って実施していることです。現在は、この基準で浜松と仙台でコンクールが実施されています。

コンクール優秀者が国際的にも活躍し、また素晴らしい音楽家が集まるコンクールとして継続することを願い、優勝者には世界にはばたく舞台出演をサポートするという副賞を設けています。

そして、何よりも重要なことは、行政が主体ではなく、香川県・高松市、民間企業、県民市民のいわば「オール香川」の支援による地元の文化環境、土壌を考えたコンクールを行うことにあります。先にあげた浜松と仙台は、資金については、多くを行政負担により実施されていますが、本コンクールは、民間企業、団体からの寄付が主な財源となっています。また、実施に当たってのスタッフも県民市民を中心とするボランティアで構成されています。

第1回高松国際ピアノコンクールは、2006年3月18日から3月26日に開催され、25の国と地域から306名がエントリーし、予備審査の後、第1次審査に68名、ファイナリスト6名のうち、ウクライナ出身のパベルギントフが1位となりました。

第2回高松国際ピアノコンクールは、昨年3月17日から3月28日に開催され、26の国と地域から243名がエントリーし、予備審査の後、第1次審査に40名、本選では

オーケストラとの協奏曲で競い合い、ファイナリスト6名のうち、ロシア出身のアレクサンドル・ヤコブレフが1位となりました。香川勢も富田珠理さんが第3次審査まで残るなど、おおいに活躍されました。

この2回のコンクールの開催にあたり、ロータリークラブおよび会員企業からご支援いただきましたことを、この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

それでは、少し、コンクールのことについて、お話をしたいと思います。

まず、事務局長として、一番肝を冷やしたことは、参加申し込みの事でした。色々なところからの問い合わせはあるのですが、申し込み締め切りの一ヶ月前になっても、応募者はなく、2週間前になっても、やっと数名の申し込みが事務所に届けられ、これでは、大々的に広報はしたものの、応募者が数名でコンクールが開催できるのか、不安は増すばかりでした。ところが、締め切り間近になってから、毎日2桁の応募があり、胸を撫で下ろしたしだいでした。

もう一つのエピソードは、海外の出演者や審査員が口をそろえて、「素晴らしいと」おっしゃることがあります。それは、サンポートホールのホワイエから見える瀬戸内海の風景です。ある審査員は、「どんなに大変でもこの風景を見ると心があらわれます。世界中どこを探しても、この様な素晴らしい風景は見たことがありません。きっとこのコンクールは、うまくいきますよ。」と絶賛していただきました。

次に、第2回のピアノコンクールで、特に感謝すべきことは、昨今の景気の悪さにも関わらず、多くの企業や団体がこの事業にご賛同、ご支援をいただいたことと、ボランティアを中心に、50回を上回る募金、PR活動や、開催期間中延べ1,367名の方にご協力いただいたことです。

また、広報活動については、インターネットを活用するところにより、多くの国と地域へ情報を発信することができました。開催前1年間のホームページへのアクセスは12万5千回を上回り、開催月の3月だけで3万回を超えることとなりました。

今回は、開催期間中に動画配信を行ったところ、17,771回の視聴がありました。

勿論、新聞やTV、ケーブルTVなどのメディアからも多くの取材を頂き、情報発信をしていただきました。

第2回では、国際ピアノコンクールで初めて、ショパンコンクールでも採用決定されているイタリアのファツィオリ社のピアノを採用し、ファツィオリ社のピアノを選択した石村純さんが2位を獲得されました。

ピアノコンクールの特徴などを中心のお話をしてまいりましたが、何よりも大切なことは、「地域の人たちが共に協力して、音楽文化を構築し、子どもたちに夢と目標を与える」ことこそが、地域を活性化させるための重要な人づくりであると考えています。そして、このコンクールが地域の人々の誇りになれるよう、今後とも、質の向上を目指し実施をしていきたいと考えております。そのためにも、ロータリーの皆様方のご協力をお願いするしだいです。